

小学校¹⁵

平成 10 年 度

教育研究員研究報告書

社 会

東京都教育委員会

平成 10 年度

教育 研 究 員 名 簿

分科会	地 区	学 校 名	氏 名	分科会	地 区	学 校 名	氏 名
第三学年	江 東 世 田 谷 杉 並 練 馬 立 川 多 摩	南 砂 東 小	三森 崇史	第五学年	新 宿 渋 谷 練 馬 足 立 立 川 三 鷹 青 梅	鶴 卷 小	山口 雄司
		弦 卷 小	手塚 成隆			加 計 塚 小	内嶋由紀子
		桃 井 第 一 小	片桐 郁夫			光が丘第六小	嶋田 春海
		中 村 小	○相澤 紀夫			花 畑 第 一 小	高瀬 雄二
		幸 小	福永 広美			松 中 小	八木 真理
		聖ヶ丘小	頼住 光江			第 六 小	○近藤 敦
						今 井 小	北野 修
第四学年	中 央 墨 田 品 川 大 田 世 田 谷 板 橋 葛 飾 江 戸 川 江 戸 川 保 谷	佃 島 小	次岡 孝幸	第六学年	大 田 北 板 橋 足 立 八 王 子 武 蔵 野 府 中 福 生 武 蔵 村 山	中 萩 中 小	荒川 雅司
		二 葉 小	吉田 恒			桜 田 小	増田 俊哉
		城 南 小	石川貴美子			稲 荷 台 小	○小堂 十
		仲 六 郷 小	○新居建太郎			千 寿 桜 小	山崎百合子
		多 聞 小	菊地まゆみ			松 枝 小	佐藤 博英
		志 村 第 三 小	◎寺村 英子			第 四 小	杏澤 広明
		南 奥 戸 小	中村左都子			南 町 小	鈴木 崇
		上 小 岩 小	杉本 幸司			福 生 第 七 小	岡 正純
		清 新 第 三 小	大山美佐子			第 一 小	宮内 潤
		碧 山 小	佐熊郁代子				

◎ 全体世話人 ○ 世話人

担当 教育庁指導部初等教育指導課指導主事 伊 東 富士雄

目 次

I 社会共通研究主題

自分なりの考えをもち意欲的に追究する社会科学習

II 研究主題

- | | | |
|---|---------|---|
| 1 | 第3学年分科会 | 子どもが問題意識をもち、追究していくことのできる教材の工夫 … 2
～子どもの学びの姿を大切にしたい、地域素材の教材化～ |
| 2 | 第4学年分科会 | 地域の見方・考え方を深めるための教材の工夫 …… 7 |
| 3 | 第5学年分科会 | 調べる過程で、自らの考えを高めるための学習活動の工夫 … 13 |
| 4 | 第6学年分科会 | 社会的事象に主体的にかかわることができる教材の工夫 …… 18
～「人」に目を向けて～ |

〈概要〉

- これからの教育では、社会の様々な面で進行する急速かつ激しい変化を見通し、その変化に適切に対応できる力を育成することが重要である。そこで、今後の社会学習には人や社会、文化などのかかわりを重視し、体験的活動や問題解決的な学習を取り入れ自ら疑問や課題をもち、それを意欲的に追究することによって児童の社会的な見方・考え方を育てることが求められている。
- 児童が自ら問い、主体的に学習を進めていくように、身近な地域素材の教材化、多面的な見方・考え方ができる教材の工夫などを図り、自らの生活に生かすことができるような授業づくりを目指した。
- 児童が追究の過程で、互いの見方・考え方を交流し合い、より深い見方・考え方ができるような学習過程を工夫するとともに、児童が安心して自分の力を発揮できる場として、認め・励まし合うことのできる学級づくりに努めた。
- 研究の推進に当たっては、社会共通研究主題を設定し、それを基調として4つの分科会が各研究主題と仮説を設定した。各分科会では、文献及び授業実践の先行研究に学びながら、授業研究を通して仮説の検証を行い、研究主題に迫るように努めた。

「子どもが問題意識をもち、追究していくことのできる教材の工夫」
～子どもの学びの姿を大切にしたい、地域素材の教材化～

I 研究主題設定の理由

3年生は、社会科に初めて出会い、社会科の窓を開ける学年といえる。その窓から見える社会科の景色は、生き生きと子どもの目に映り、そして感動を与えるものでなければならない。

そのためには、子どもが地域の社会的事象に強い興味、関心をもち、絶えず追究し、自分なりの答えをみつけだす過程が重要となってくる。地域を身近なものとしてとらえ、自分の中に受け入れ、自らかかわっていく。その中で、人の営みの素晴らしさに気づき、自分もまた地域社会の一員と実感するのである。

第3学年分科会では、まず子どもの生活や、学びの特性から教材を考えることにした。

子どもの意識や学び方と離れた学習となったり教師側のつかませたいことのみを子どもたちに追究させたりすることのないよう、子ども一人一人の考えや疑問の中から共通の問題意識をとらえる。そして、それぞれの考えで追究し、解決できる教材を考えていきたい。さらに教材を見つめ直し、自分の考えで新たな提案を行っていくことで子どもたちは地域に働きかけるのである。

以上のように、私たちは、全体主題、「自分なりの考えをもち、意欲的に追究する社会科学習」を受け、3年生なりの地域社会とのかかわりを考え、「子どもが問題意識をもち、追究していくことのできる教材の工夫～子どもの学びの姿を大切にしたい、地域素材の教材化～」というテーマを設定した。

II 研究のねらい

子どもが自分の考えをもつためには、問題意識をしっかりと持つことが大切である。そのために子どもの学びの姿から離れずに、地域に存在する素材をどのように教材化すればよいかを明らかにする。

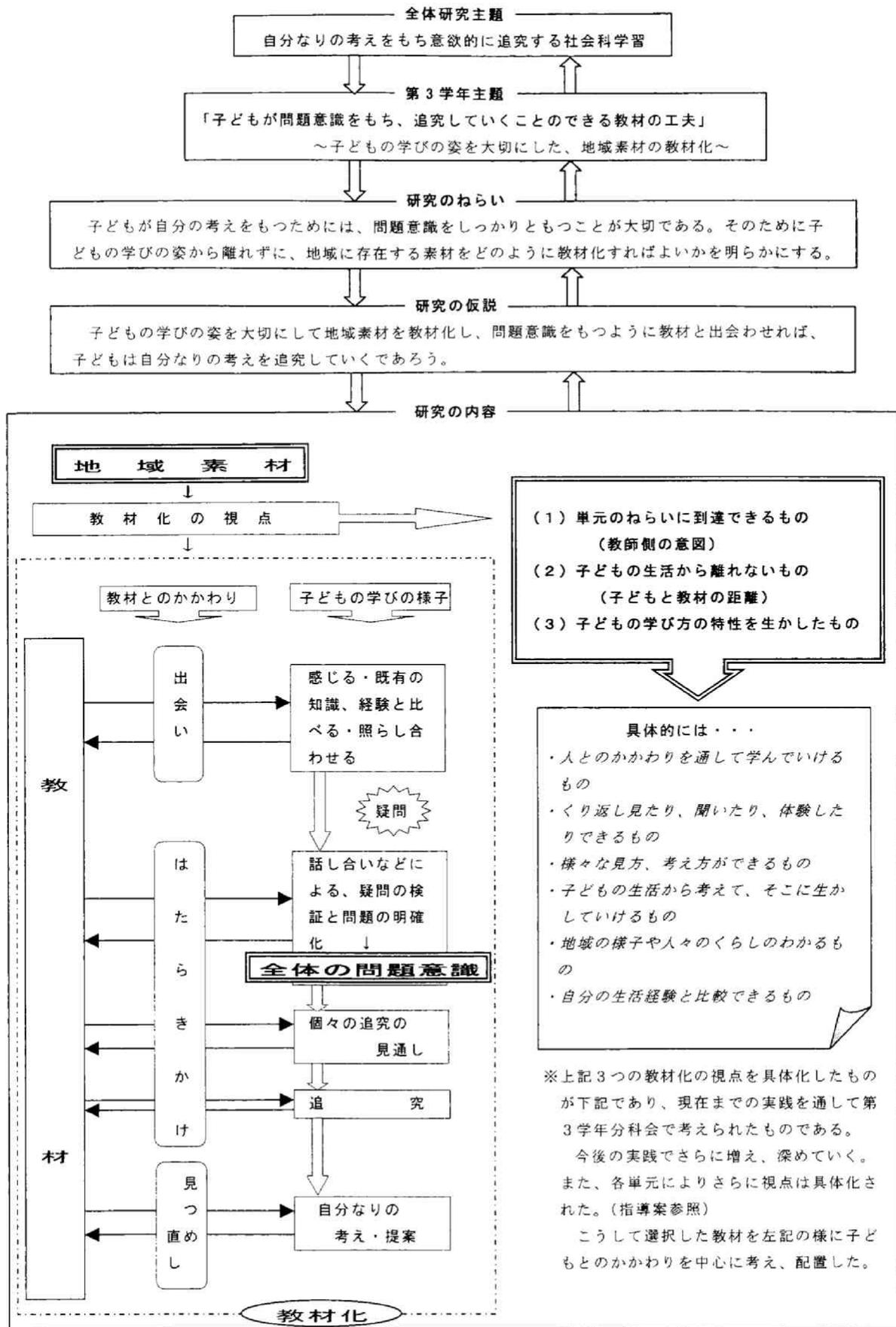
III 研究の仮説

子どもの学びの姿を大切にしたい地域素材を教材化し、問題意識をもつように教材と出会わせれば、子どもは自分なりの考えを追究していくであろう。

IV 研究の内容と方法

- 1 内容 ・地域素材を教材化する視点を明らかにする。
・子どもの学びの様子に合わせて、学習過程に教材を位置付ける。
- 2 方法 ・子どもの学びの姿を分析する。
・地域素材を視点によって教材化する。

V 研究の構想図



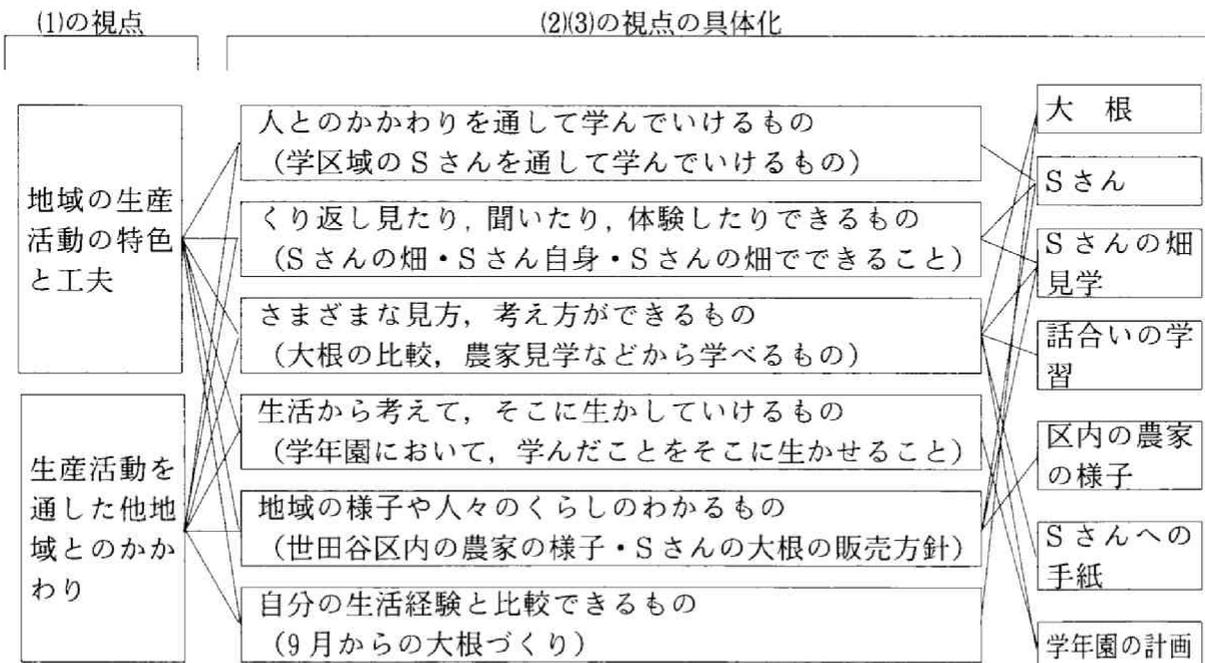
VI 教材化の視点について

- 1 「単元のねらいに到達できるもの」(教師側の意図) という視点は、学習すべてにかかわってくるものである。
- 2 「子どもの生活から離れないもの」(子どもと教材の距離) という視点は、学習している子どもの生活の場から始め、そこで得たことを自分の生活に生かしていくことである。
- 3 「子どもの学びの特性を生かしたもの」という視点は、“子どもの学び方の特性”である『子どもがこのようなときに生き生きとよく学ぶ』という内容や方法を生かした教材ということである。内容としては、①自分のよく知っていること ②人とのふれあい ③身近だがよく知らないものなどがあげられる。方法としては、①諸感覚を生かした活動をしたとき ②道具を使ったときなどがあげられる。

VII 実践事例

1 単元名 「大根大作戦～地域の農家の様子」

2 教材構想図



3 指導計画（全10時間扱い 本時1時間目）

教材との かかわり	主な学習活動・内容	予想される学びの姿・学びの様子		教材化の視点										
出 会 い 1	<p>①実際に大根をつくってみての感想を発表する。</p> <p>②近くの畑でつくられた大根と自分たちがつくった大根を比べて気が付いたことを発表する。</p> <p>③疑問点について予想する。</p> <p style="text-align: center;">①～③一本時</p>	<p>・実ができてとてもうれしい。</p> <p>・一生懸命に育ててきて良かった。</p> <p>⇒一生懸命の内容一虫とり、水やり、肥料、耕し</p> <p>・僕たちが育てても大根はできるんだ。</p> <p>— 比較して気付いた点、疑問点 —</p> <p>・葉がとても大きいな。</p> <p>・大根がつつやしているね。</p> <p>↓</p> <p>なんでこんなに大根は大きくなったのかな</p> <p>・肥料がちがったのかな。</p> <p>・大根をつくる秘密があるんじゃないかな。</p>	<p>感じる・既 有の知識、 経験と比べ る、照らし 合わせる。</p> <p>疑問</p>	<p>— 大根 —</p> <p>・9月からの大根づくりを通して学んだこと</p> <p>・比較する中で自分の考えが広がるもの</p>										
は た ら き か	<p>①Sさんの畑に見学に行き、自分たちのつくった大根を見せよう。</p> <p style="text-align: center;">— Sさん（農家の方）のお話 —</p> <p>少し、小さい大根だけど初めてつくった大根にしてはとても立派です。今日は分からないことを聞いて、見学してってください。</p> <p>②Sさんの畑において大根を比較してみて気が付いた疑問点についてインタビューをする。</p> <p>③見学して大根についてわかったことをまとめる。</p> <p>④見学してあらたに疑問に思ったことについて話し合う。</p> <p style="text-align: center;">共通の問題意識</p> <p style="text-align: center; font-size: 1.2em;">Sさんは畑でどんなことをしているのだろう</p>	<p>・小さくてもみんなで作った大根だからやっぱりうれしいよね。</p> <p>・ほめてもらえて良かったね。</p> <p>・小さい大根だけど少し自信がついたよ。</p> <p>・肥料は何を使っているのですか。</p> <p>・深さはどれくらい掘ればいいのか。</p> <p>・肥料には堆肥というのを使っているんだね。</p> <p>・深く掘らないといけなかったんだね。</p> <p>・Sさんは一人で農家をやっているのかな。</p> <p>・畑の奥に植えてあったのは一体何だったのかな。</p> <p>・畑を耕す時はどんな道具を使っているのだろう。</p>	<p>話し合いなどによる疑問の検証・共通の問題意識</p> <p>問題意識</p>	<p>— Sさんとの出会い —</p> <p>・学区内の農家のSさんを通して学んでいけるもの</p> <p>・Sさん自身</p> <p>・Sさんから農業のことについて学べるもの</p> <p>・Sさんの農家のやり方（販売の仕方など）</p>										
か け 7	<p>⑤再びSさんの畑を見学するにあたって、聞いてみたいことを話し合う。</p> <p style="text-align: center;">～Sさんに聞きたいこと～</p> <table border="1" style="width: 100%; text-align: center;"> <tr> <td>苦 労</td> <td>道 具</td> <td>種 類</td> </tr> <tr> <td>どんなことをしているの？</td> <td>何を使っているの？</td> <td>何種類ぐらいつくるの？</td> </tr> </table> <p style="text-align: center;">個々の学習問題をつかむ</p> <p style="text-align: center;">共通の問題意識</p> <table border="1" style="width: 100%; text-align: center;"> <tr> <td>人の苦 労</td> <td>道 具</td> <td>野 菜 の 種 類</td> <td>そ 他</td> </tr> </table> <p>⑥Sさんの畑に再び訪れ、自分の学習問題についてインタビューをし、解決する。</p> <p>⑦Sさんにある一つの野菜を例にあげて、種の入手から販売までの内容を聞き、かつ区内の農家の様子についても話してもらい、聞く。</p> <p>⑧Sさんからの話をもとに区内の農家の様子について調べる。</p>	苦 労	道 具	種 類	どんなことをしているの？	何を使っているの？	何種類ぐらいつくるの？	人の苦 労	道 具	野 菜 の 種 類	そ 他	<p>肥料が決め手になるんだね</p> <p>機械も使っているんだ</p> <p>15種類もついているんだね</p> <p>・種は、わざわざ神奈川県から取り入れているんだね。</p> <p>・他の農家の様子はどうなんだろう。</p> <p>・どれくらい農家があるのかな。</p> <p>・世田谷ではどんな野菜がとれ、どんな所に行っているのかな。</p>	<p>個々の追究の見通し</p> <p>追 究</p>	<p>— 見学の話し合い —</p> <p>・農家の見学から考えが広がるもの</p> <p>— Sさんの畑見学 —</p> <p>・Sさんの畑でできること</p> <p>・Sさんの畑見学から、自分の地域の特性の発見</p> <p>— 区内の農業の様子 —</p> <p>・世田谷区内の農業の様子で他地域のつながりなど</p>
苦 労	道 具	種 類												
どんなことをしているの？	何を使っているの？	何種類ぐらいつくるの？												
人の苦 労	道 具	野 菜 の 種 類	そ 他											
見 つ め 直 し 2	<p>①Sさんにお礼の手紙を書く。</p> <p>②今まで学習してきたことをもとに学年園の計画を立てる。</p>	<p>・Sさんの畑に行ったら、農家の人の野菜に対する気持ちがよくわかりました。僕たちも大根を大切に育てたけど、それ以上にSさんは野菜を大切にしていたんですね。</p> <p>・Sさんの家でやっていたように落ち葉を肥料に使おう。</p> <p>・Sさんに聞いて、ちゃんと耕そう。</p>	<p>自分の考えの提案</p>	<p>— Sさんへの手紙 —</p> <p>・農家の見学などから、自分の考えがもてるもの</p> <p>— 学年園の計画 —</p> <p>・学習したことを、学年園として実行できるもの</p>										

4 本時（10時間扱いの1時間目）

(1) ねらい

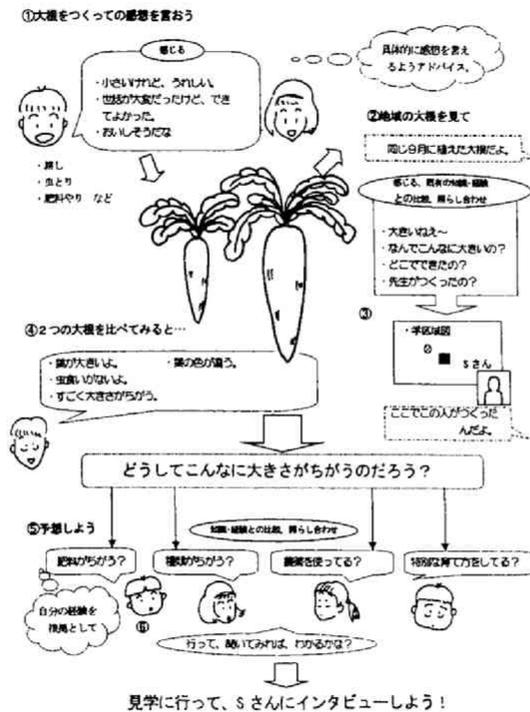
- ・Sさんの大根という教材に出会い、自分たちの大根づくりの経験と比較することができる。
- ・大根の違いについて、疑問を検証しようとするすることができる。

学習内容・活動	予想される子どもの学びの様子	教師のかかわり
<p>①今まで大根をつくってきた感想を發表する。</p> <p>②地域の畑でとれた大根を見る。</p> <p>③この大根をつくった人を知り、学区の地図でSさんの畑を確認する。</p> <p>④自分たちがつくった大根とSさんがつくった大根を比べて気が付いたことを發表する。</p> <p>⑤「なんでこんなに大きくなったのか」ということについて考えたことをワークシートに書き、發表する。</p> <p>⑥確かめる方法を考える。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・小さいけれどうれしかった。 ・大根らしいものができて安心した。 ・一生懸命育ててきてよかった。 ⇒虫とり、水やり、肥料、畑耕し ・わー、大きい。 ・なんでこんなに大きくなったのかな。 ・誰がつくったの。 ・Sさんは農家の人なのかな。 ・あーさつまいも掘りをしたところだ。 ・ここなら知っている。 <p>～比較して気付いたこと、疑問に思ったこと～</p> <ul style="list-style-type: none"> ・葉っぱがSさんさんのは大きいぞ。 ・葉っぱが虫に食われていないね。 ・Sさんの大根はとても大きい。 ・Sさんの大根は傷がついていないね。 <p>共通の疑問</p> <ul style="list-style-type: none"> ・なんでこんなに大きくなったのかな。 ・肥料が違うんじゃないかな。 ・一生懸命に世話をしていたんじゃないかな。 ・農家の人は農薬をまいているんじゃないかな。 ・Sさんにあって、みんなが考えたことについてインタビューしよう。 	<ul style="list-style-type: none"> ・児童の相互指名で1人でも多くの児童が發言できるようにする。 ・子どもがSさんの大根に関心をもてるように、提示する。 ・大根はほぼ同じ時期に種をまいたことを知らせる。 ・比べる視点をもたない子どもには、具体的に違いがわかることを示す。 ・考えがうかばない子どもには、大根を実際につくった体験をもとにして考えるよう助言する。

(2) 評価

- ・Sさんの大根と自分たちの大根を比較して、話し合うことができたか。
- ・この学習を通して、畑に行きたい、Sさんに会いに行きたいと思う意欲をもつことができたか。

本時 子どもの学びの姿



VIII 研究の成果と今後の課題

1 研究の成果

- (1)教材化の視点に「子どもの生活から離れないもの」「子どもの学びの特性を生かしたもの」という項目を入れて教材を用意した。それにより子どもたちは、教材を身近に感じ取り、学んだことを生活に生かし、地域にかかわろうとしていった。
- (2)実践を通し、子どもの学びの姿を見直すことにより、「身近だがよく知らない素材」を取り上げ、「諸感覚を生かした活動をしたとき」などに“子どもは生き生きと学ぶ”という子どもの学びの特性を明らかにすることができた。
- (3)子どもの学びの姿を分析することにより、「出会い」や「はたらきかけ」「見つめ直し」という教材とのかかわり方を明らかにすることができ、その過程の中で子どもたちは、意欲的に学習をすすめることができた。
- (4)子どもたちは、多くの疑問を出し合い整理していく中で、共通の問題意識をもてるようになり、学習問題を具体的に設定できるようになった。

2 今後の課題

- (1)「教材を見つめ直す」段階で、どのような形の“地域にはたらきかける姿”があるのかなど、各単元の教材化の視点をより具体的にしていきたい。
- (2)子どもたちが「調べたいこと」としている内容と、教師の意図しているねらいとの整合性を大切にして、教材化を図っていく必要がある。

研究主題 ————— 〈第4学年分科会〉

地域の見方・考え方を深めるための教材の工夫

I 研究主題設定の理由

児童を取り巻く社会の状況は大きく変化し、新しい教育が求められている。これからの時代を担う児童には、その変化に対応しながら生きていく力が必要である。その時々直面する諸問題に対して、自分なりの考えをもち、的確に判断・問題解決にあたり、主体的に生きていく力を一人一人の児童が身に付けていくことが重要な課題である。

人間関係を深めることを望んではいないものの、人間関係が希薄になり、他人とのかかわりをもてない児童が増えている。また、4年生の社会科の目標である、地域の発展を願う態度については、地域の発展を願う思いや考えはあるが、地域に働きかける方法を確実に身に付けている児童は少ないという現状がある。

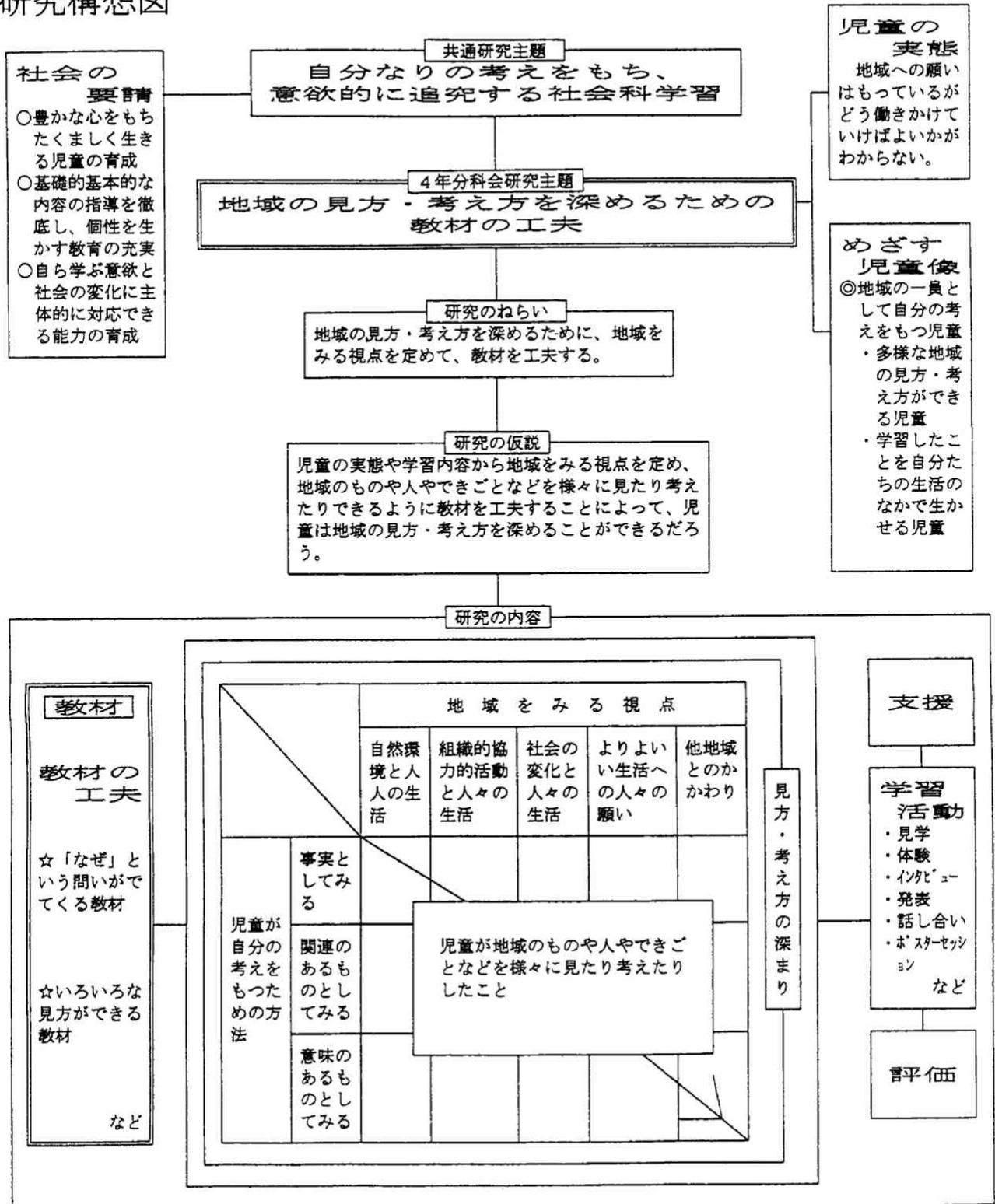
自分なりの考えをもつことは、「社会的な見方・考え方」をもつことであり、「社会的な思考力・判断力」を身に付けることにつながる。地域学習を行う4年生にとって、この社会的な見方・考え方を深めるためには、「地域の見方・考え方」を深めることが大切であると考えます。

そのためには、教材の工夫が大切である。児童は、教材と出会い、教材に触れ、疑問をもったり、様々な考えをもったりする中で、地域の見方・考え方を深めていくことができると考えている。4年生が学習する地域は空間的にも時間的にも広がりのある地域であり、5年生に移行していくためにも、児童にとってより具体的にとらえられるような教材の工夫が大切である

と考えた。

以上のことから、地域の見方・考え方を深めるために教材を工夫しようと考え、上記の研究主題を設定した。

研究構想図



II 研究の内容と方法

- (1) 第4学年の目標や内容について吟味する。
- (2) 児童が地域をみる視点を定める。
- (3) 児童に深めて欲しい地域の見方・考え方を明らかにする。
- (4) 地域の見方・考え方を深めるための教材を工夫する。
- (5) 児童の見方・考え方の深まりを見取る。

III 教材の工夫について

本分科会では、まず、児童に深めてほしい地域の見方・考え方を明らかにしようとした。そのために、児童が地域をみる5つの視点を定め、これを横軸に、「事実としてみる」「関連のあるものとしてみる」「意味のあるものとしてみる」という、児童の見たり考えたりする方法を縦軸にとり、前頁の構想図にあるような表を作成した。

そして、単元の指導計画を作る時に、この表に、児童に深めてほしい地域の見方・考え方を書き入れることによって、明らかにしながら、地域の見方・考え方を深める教材を工夫することにした。

地域に対する実態調査の結果、児童は、地域をみるときに、生活経験からだけでなく、生活科や社会科などで学習したことを生かしていることが分かった。そこで、地域をみる視点は、学習内容を重点に設定することが有効であると考え、「自然環境と人々の生活」「組織的協力的活動と人々の生活」「社会の変化と人々の生活」「よりよい生活への人々の願い」「他地域とのかわり」の5つを定めた。また、第4学年は、地域をみる意識が変わる時期であることも分かり、この時期に興味や関心をもって地域をみつめたり、広い視野からみたりすることのできる児童を育てることが大切だと思われる。

本分科会では、特に、次の2点から、教材の工夫を図ることにした。

(1) 「なぜ」という問いがもてる教材

教材と出会った児童が、教材を通して、自らの課題を発見し、その課題を解決しようとすることは、地域の見方・考え方を深めていく上で大切である。

児童が自らの課題を発見するのは、驚きを感じたり、何か矛盾を感じたり、どのようにするのか予測しようとしたときであるにとらえている。そこで、「なぜ」という問いがもてる教材が必要であると考えた。

このように、「なぜ」という問いがもてる教材をもとにして、児童は課題意識をもち、意欲的に追究することができ、地域の見方・考え方を深められると考える。

(2) いろいろな見方ができる教材

児童が地域の見方・考え方を深めるためには、①他の人の立場で考える②昔から今をみる③今から昔をみるというように立場を変えろという方法が有効であると考えた。

また、答えの根拠をみつける場合、根拠が一つではなく、様々に考えられることも有効であると考えた。

このように、いろいろな見方ができるような教材を工夫することができれば、児童は地域の社会的事象の意味に気付くことができ、地域の見方・考え方を深められると考えた。

IV 実践事例

(1) 小单元名 「荒川をつくる」

(2) 小单元の目標

洪水を防ぎ、地域の生活を向上させるために、地域の先人たちが様々な努力をして、荒川をつくったことを理解しようとする。

(3)本小单元において深めたい地域の見方・考え方

		地 域 を み る 視 点		
		自然環境と人々の生活	社会の変化と人々の生活	よりよい生活への人々の願い
自	事	<ul style="list-style-type: none"> ・明治43年に荒川の水があふれた大洪水が起きた。 ・荒川のまわりの町は、10日以上も水浸しで、大きな被害を受けた。 ・明治の人たちは、毎年のように洪水におそわれていた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・荒川は洪水を防ぐために人がつくった川だ。 ・昭和3年に大雨が降ったときは荒川があったから、洪水にならずにすんだ。 ・荒川の工事は20年もかかった大きな工事だ。 ・荒川の工事はシャベルやエキスカ、浚渫船などを使って行った。 ・荒川ができてからも洪水は起きたから荒川を直している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・洪水のある所に住んでいた人々は、洪水が起きないようにしてほしいと願っていた。
分	実			

(4)指導計画と児童の変容

時	主な学習活動(教材)	K児の変容	I児の変容
問題の発見	1 明治43年の大洪水の写真や地図、体験談から考えたことを話し合い、当時の人々の願いについて考えたことをワークシートに記入する。 (大洪水の写真・被害地図・体験者の話)	毎年のように来るからいやだ。みんな生きていてくれよ。家族と家で楽しく暮らせるようになりたいなあ。 ↓	洪水はご飯も洋服も大事なものも全部とってしまう。もう来ないで!
	2 明治43年と昭和3年の写真を比べて、疑問に思ったことを話し合い、昭和3年に洪水にならなかった理由について話し合う。 (明治43年と昭和3年の写真・荒川ができる前後の地図)	昭和は明治より雨が多いのになぜ洪水にならないの? ↓ 太い川を1本つくって水の逃げ場をつくったんだ。 ↓	昭和のほうが雨の降った量が多いのに、なぜ避難しないの? ↓ 細いと水があふれるから、大きな川をつくったんだ。 ↓
問題の明確化	3 年表やテープから、荒川をつくった年数や大きさを実感し、疑問に思ったことを話し合う。 (年表・川幅と同じ長さのテープ)	校庭4往復もあって思ったよりずっと大きい。 ↓ どんな道具でどんな工事をすれば、こんな大きな川ができるの?途中で事故や洪水はなかったの? ↓	家や畑をこわして20年もずっとほったんだ。 ↓ 家に住んでいた人や畑をやっていた人はどこへ行ったの? ちゃったのかな? ↓

問題の明確化	4	学習問題の予想を立て、学習計画を立てる。 (前時までの教材)	大きな川を作ったのだから、事故もあったと思う。住んでいた人は引っ越しただよ。	また洪水が起きてほしくないから、住んでいた人たちは家をこわして違う所に住んだんだな。
追究する	5 5 10	個々に追究し、グループごとに作品にまとめる。 (絵や写真・ビデオ・文章資料・工事年表・個々に調べたこと)	死んだ人もいたけれどがんばってつくった努力の結晶なんだ。苦労したんだな。	引っ越して大変だったこともあったけどそのおかげで洪水が起こらなくなった。
	11	ポスターセッションを行い、とらえたことをワークシートに記入する。(児童の作品)	荒川をつくるために住んでいたひとたちも努力と我慢をしてがんばったんだなあ。	道具で洪水がなくなるようにいろいろやっていた。工事のときに事故もあった。
概念化	12	荒川ができた後も洪水は起きており今でも洪水を防ぐ努力が続いていることを話し合い、50年後の地域の人々に手紙を書く。 (前時の作品・その後の年表)	毎年来る洪水に困っていたから荒川をつくったの。その後も大きな台風がきたのでスーパー堤防をつくったの。それをつくってくれた人に感謝しよう。そのおかげで、今幸せに暮らしているのだから。	明治43年は洪水で荒川をつくって、その後もすごい洪水が起きたから、スーパー堤防をつくって、私の家まで洪水がこなくなった。もし、また起きたら、もっとすごい堤防をつくるんだろうな。

(5) 考察

① 地域の見方・考え方

本小単元で深めたい地域の見方・考え方の表を作成することにより、教材を工夫することができた。また、この表は、児童の変容を見取ることに役立った。

そして、K児やI児に見られるように、児童は、洪水を防いで安心して暮らしたいという人々の願いを実現するために、地域の人々が苦労や努力をして荒川をつくり、その後も洪水を防ぐための人々の努力は続いている。それらのおかげで今の自分たちが安心して生活していることを考えることができた。

このように、これまでの児童には見られなかった新たな地域をみる視点から、児童の地域の見方・考え方を深めることができた。

② 教材の工夫

- ・2枚の写真を並べて提示したことから、「昭和のほうが雨がが多いのに、なぜ洪水にならないのか。」という問いをもち、洪水を防ぐために荒川をつくったことを考えることができた。
- ・川幅と同じ長さのテープから、荒川の大きさを実感し、課題意識をもつことができた。
- ・荒川完成後の年表から、今でも洪水を防ぐ努力は続いていることを考えることができた。
- ・2枚の地図や川幅と同じ長さのテープから、いろいろな予想を立てることができた。
- ・写真やビデオ、文章資料など様々な資料を用意したことから、自分に応じた資料を選びそ

それぞれの立場から、荒川をつくったことについて考えることができた。

- ・ポスターセッションでの友達の作品から、荒川についていろいろな見方をすることができた。
- ・荒川完成後から未来への年表から、社会の変化と自分の生活について考えることができた。

V 研究の成果と今後の課題

(1) 研究の成果

- 地域をみる視点を定め、児童が見たり考えたりする方法を表に記入しながら明らかにすることは、地域の見方・考え方を深め、教材の工夫の仕方を考えるのに有効であることが分かった。また、この表は学習の過程で児童の地域の見方・考え方の深まりを見取るのにも有効であった。
- 「なぜ」という問いがもてる教材に触れることによって、児童は、課題意識をもち、単元を通して意欲的に追究し、地域の社会的事象の意味を考えることができるようになることが分かった。
- いろいろな見方ができる教材を通して、地域の社会的事象を様々な立場から考えることができるようになることが分かった。児童が調べたことを教材とし、比較できるように工夫することで、地域の見方・考え方が一層深まることが分かった。

(2) 今後の課題

- 教材の工夫として掲げた2点のほかに、どのような工夫が有効であるかについてさらに研究を深めていきたい。
- 「事実としてみる」「関連のあるものとしてみる」「意味のあるものとしてみる」の3つに分けて考えたが、実践を通してさらに検討を加えていきたい。
- 教材を有効に活用するための学習活動や支援・評価について、さらに研究していきたい。

研究主題 ————— 〈第5学年分科会〉
調べる過程で、自らの考えを高めるための学習活動の工夫

I 研究主題設定の理由

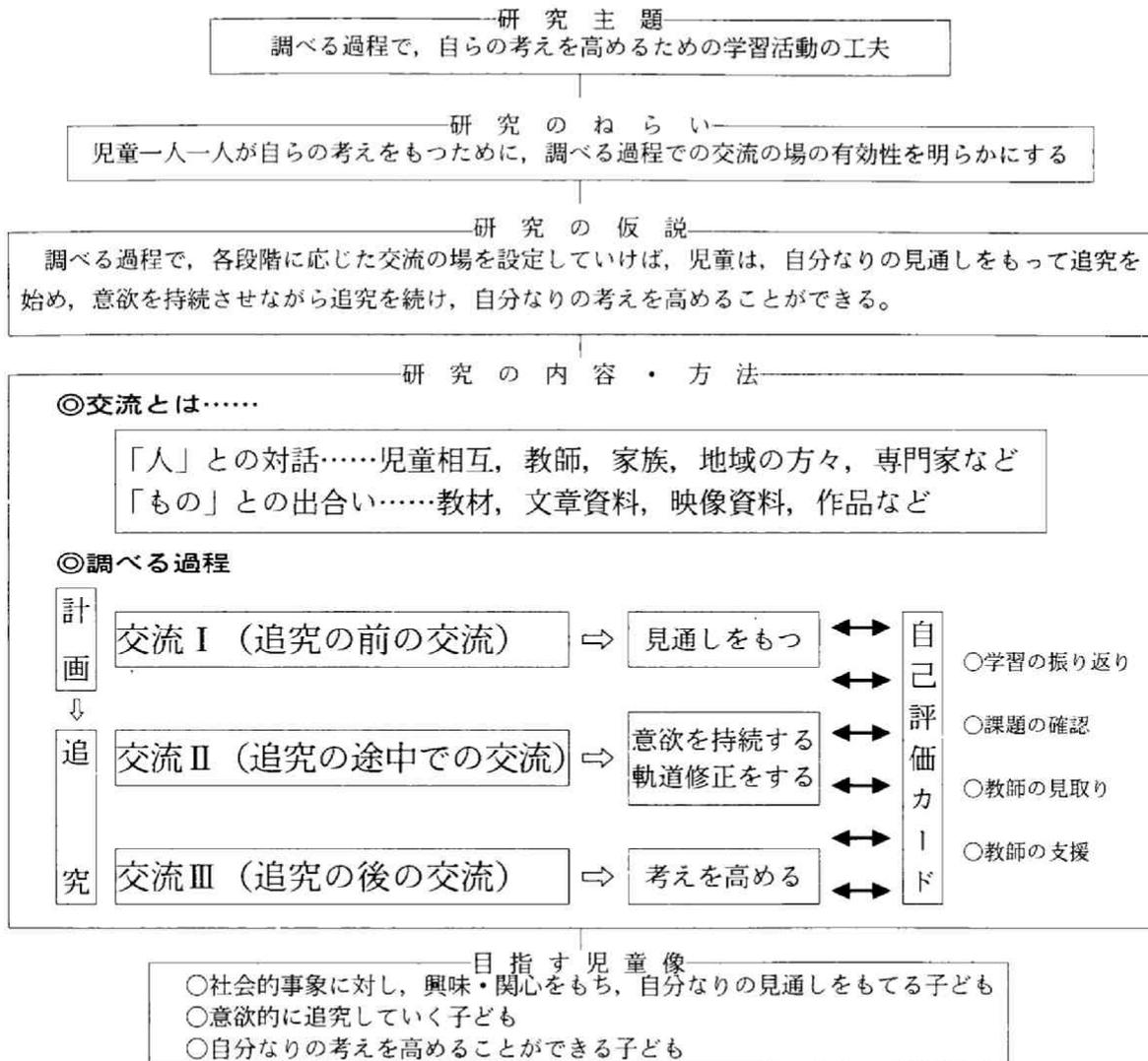
これからの社会科教育には、どのように社会が変化しようとも、自ら学び、考え、問題を解決する資質や、能力を育成することが求められている。本分科会では、この観点に立ち、問題解決的な学習を重視していくことにした。児童は、教材化された社会的事象と出合い、問題を発見し、予想を立て、自分なりの調べ方で問題を解決する、といった学習をしていく。このことにより、児童は、問題を解決するための手順や方法を身に付け、問題を解決した充実感を得ることができる。こうした学習の積み重ねが、児童の「生きる力」をはぐくむことにつながると考える。

しかし、実際には、問題に対して予想を立てられず、調べ方についても見通しをもてない児童も見られる。また、問題発見時にもった意欲や関心が、調べる過程の中で減退してしまったり、追究の方向が問題の中心からはなれてしまったりする傾向がある。このような実態を踏ま

え、本分科会は、問題解決的な学習の中から、調べる過程における児童の学習活動に焦点をあてて研究し、共通研究主題に迫ろうと考えた。

なお、本分科会では、問題解決的な学習過程において、調べる過程を、計画を立てる段階から追究の段階までと規定した。

II 研究の構想



III 研究の内容・方法について

1 交流について

問題解決的な学習では、児童が見通しをもち、意欲を持続させながら追究を続け、自分なりの考えを高めていくことが大切である。本分科会では、その調べる過程の各段階に、「交流」という学習活動を設定した。「交流」とは児童相互・教師・協力者といった人との対話、教材・資料・児童の作品といったものとの出会いなどの総称である。調べる過程の各段階での児童のつまづきや行き詰まりを、交流によって解消したいと考えている。

(1) 交流Ⅰ（追究の前の交流）

⇒ 見通しをもつ

実際に追究を始める前に、児童は、自らの学習課題を作り、予想をし、調べ方の計画を立てる。しかし、どの児童にもこの活動をスムーズに行えるとは限らない。何を課題としていかわからない児童、予想を立てられない児童、どんな調べ方をすればよいか迷ってしまう児童も見られる。そこで、小集団または学級全体で、発表や話し合いを行うことにした。他の児童の発表を参考にすることから、自らの課題や予想、調べ方の計画が立てやすくなる。また、児童によっては、教師が支援を行って共に計画を立てることもあり得る。さらに、予想をすることが困難な問題に対しては、新たな資料や実物の提示によって、予想をしやすくすることも考えられる。

(2) 交流Ⅱ（追究の途中での交流）

⇒ 意欲を持続する 軌道修正する

調べる過程では、個別に、または小集団での追究活動が展開される。だが、追究を続けているうちに、「資料が見つからない」「わからないことがある」などの理由で、意欲が減退してしまうことがある。また、追究の方向が問題の中心からはなれてしまうこともある。こうしたとき、情報交換や中間発表会といった話し合いの機会をもつことによって、解決することができる。しかし、児童相互の交流だけでは解決できないこともある。その場合、ビデオや写真、インターネット等の資料との交流や、教師や専門家などとの交流によって、行き詰まりを打破させたり、軌道修正させたりする。また、この段階で、「分からないこと」の解決手段として、見学を行うことも有効である。

(3) 交流Ⅲ（追究した後の交流）

⇒ 考えを高める

課題を追究し終えたとき、「できた！」という達成感は大切にしたい。しかし、それで満足してしまい、ほかの課題について興味を示さない場合がある。社会的事象は、たくさんの事実から成り立っている。そのため、一つの事実だけでは、その全体像が分からないことがある。さらに、個々の追究では、見落としてしまったり、気付かなかったりすることもある。そこで、追究を終えた児童相互で交流させ、多くの事実を自分のものとし、全体像が見えるようにする。

一方、児童の力ではすべてを調べることができない課題もある。その場合、教師や資料との交流によって気付かせる。さらに効果的なのは、専門家との交流である。実体験を聞いたり、質問したりすることによって、それまで見えなかったことが見え、自分なりの考えも深まるものと考えられる。

2 自己評価カードについて

本分科会では、自己評価カードを活用して、児童の活動を見取っていくことにした。毎時間の学習で、気付いたことや分かったこと、困っていることなどを書く。また、自分の活動について自己評価するカードである。このカードを使用することによって、児童は、自分の学習を

振り返ることができ、自らの課題を再確認することができる。教師にとっては、児童がどういったことでつまづいているか、どのような交流を行うことが必要なのかを知る、大切な資料となる。さらに、教師がコメントすることによって、個に対応した支援ができるなど、有効な手段と考えている。

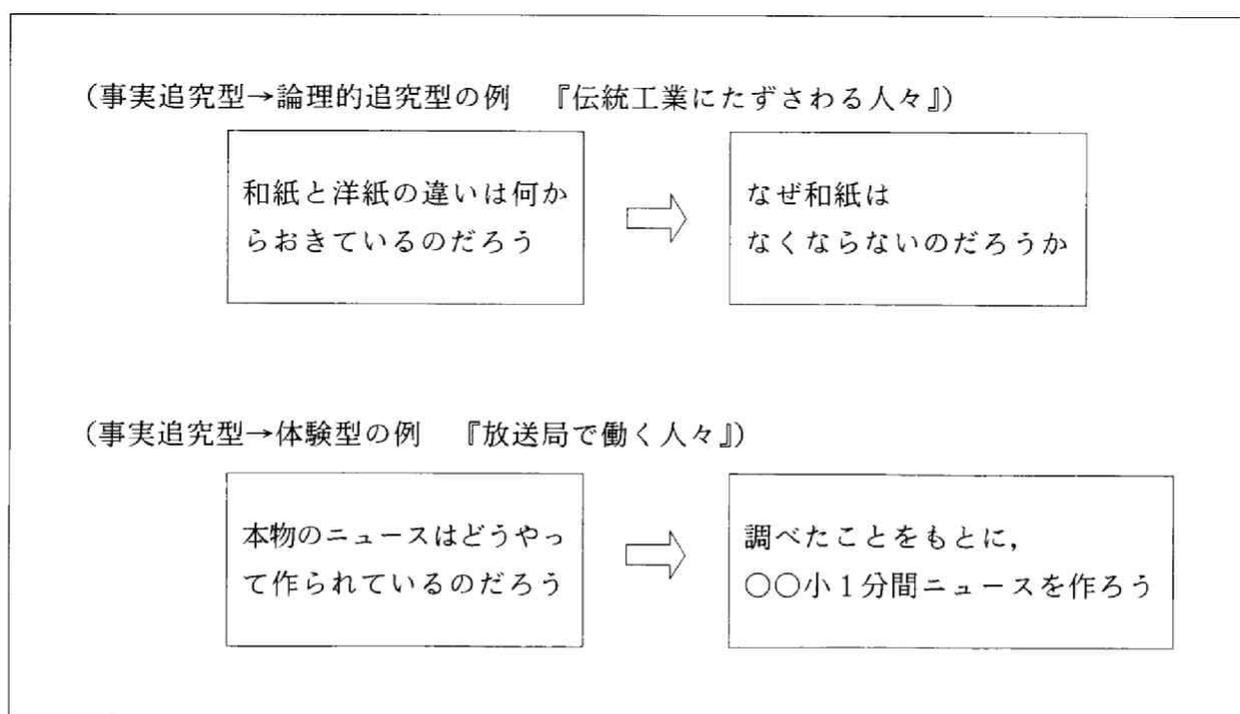
(自己評価カード例)

月 日	学習する こと	気が付いたこと・分かったこと・困っていること	楽しく学習 できた	学習が 分かった	交流できた	検印
/			A B C	A B C	A B C	

3 学習問題について

交流のさせ方と同時に、学習問題についても考えた。まず、学習の進め方を、児童の視点で考えた。はじめにいろいろな事実を知ることから、次に「なぜ」という疑問や「やってみよう」という気持をもつのではないかと考えた。

そこで、単元のはじめには、事実をありのままに調べるための、事実追究型の学習問題を設定した。次に、調べた事実をもとにして、さらに発展させた論理的追究型や、体験型の学習問題を設定して、児童の考えを高めていくようにした。



IV 実践事例

1 小単元名 「放送局で働く人々」

2 評価基準

社会的事象への関心・意欲・態度 ニュースを作ることを通して、放送に携わる人々の工夫や努力について調べようとする。

社会的な思考・判断 ニュース作りを通して、日常生活と情報の深いかかわりについて考える。

観察・資料活用の技能・表現 調べたことをもとに、協力しながらニュースを作る。

社会的な知識・理解 ニュースの制作や調べる活動を通して、放送に携わる人々の仕事を知り、工夫・努力について理解する。

	ねらい(時間)	○主な学習活動と内容	調べ方・資料等	評価	交流【Ⅰ～Ⅲは研究構想図参照】
つかむ	<ul style="list-style-type: none"> 本物のニュースとアナウンスの仕方や内容を比べることから学習問題を作る。(1) 	<ul style="list-style-type: none"> ○ニュースの映像(音無し)をみてアナウンス原稿を考える。 <ul style="list-style-type: none"> ・何字ぐらいの原稿を作ればいいのか。 ・見ている(聞いている)人に分かりやすく伝えよう。 ○実際の映像に合わせてアナウンスをしてみる。 <ul style="list-style-type: none"> ・時間が足りない。(あまる。) ・読み間違えとあわせてちゃう。 ○本物のニュースを見て、自分たちのアナウンスと比べる。 <ul style="list-style-type: none"> ・やっぱりわかりやすい。 ・時間もびったりだ。 <p style="border: 1px solid black; padding: 2px;">本物のニュースはどうやって作られているのだろう。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・実際のニュースからとった映像 ・ニュースにかかわる必要事項 ・実際に放映されたニュース 	<ul style="list-style-type: none"> ・映像に合わせての原稿作りやアナウンスを意欲的に行う。【関】 ・自分たちのアナウンスと比べニュースの作り方に関心をもつ。【関】 	<ul style="list-style-type: none"> ・お互いのアナウンスを聞き合い意見交換をする ・学級全体で、比べた感想を話し合う。
調べる	<ul style="list-style-type: none"> ・様々な資料の活用、見学を通してニュースの作り方をつかむ。(2～6) ・ニュースの作り方をまとめる(7) ・調べたことをもとに自分たちで実際にニュースを作る。(8～9) ・ニュースを見合い、アドバイスをもとに手直しをし、番組を作る工夫や努力に気付く。(10～11) 	<ul style="list-style-type: none"> ○ニュースが放送されるまでに必要な仕事を予想し、話し合う。 <ul style="list-style-type: none"> ・時間を計ったり、アナウンスしたり、カメラの仕事が必要だ。 ・指示を出す仕事もいるんじゃない。 ○調べる計画をたてる。 <ul style="list-style-type: none"> ・何を使って調べようか。 ・分担して、調べよう。 ○計画に沿って調べる。 ○NHK スタジオパークを見学する。 ○調べたことをまとめる。 <ul style="list-style-type: none"> ・どんな人たちが、どんなものを使って、どのように作っているのか。 <p style="border: 1px solid black; padding: 2px;">調べたことをもとに、1小1分間ニュースを作ろう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ニュース作りの計画をたてる。 ○1分間のニュース作りをする。(取材、台本作り、撮影、編集等。) ○できあがった作品を見合い、意見交換し、NHKの方からアドバイスを受け、番組作りにかかわる話を聞く。 <ul style="list-style-type: none"> ・アナウンサーは原稿ばかり見てはいけなないんだ。 ・気付かなかったけど、そんな工夫をしているんだ。 ○不足を付け加えたり、再編集したりして、作品の手直しをする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・小冊子「テレビ番組ができるまで」 ・ビデオ「遮断子どもニュースができるまで」(NHK 広報室) ・教科書 ・児童相互の意見や感想 NHK の方のアドバイス、話 	<ul style="list-style-type: none"> ・ニュース作りについて、必要な資料を探し、課題について班で調べる。【技】 ・資料の活用や、見学を通してニュースを作る人々の仕事について知る。【知】 ・班で役割を分担し、進んでニュース作りに取り組もうとする。【関】 ・表現方法を工夫してニュースを作る。【技】 ・友達の見聞や NHK の方の話を聞き、作ったニュースの改善点や放送に携わる人々の工夫や努力に気付く。【思】 	<ul style="list-style-type: none"> ・個々の予想をもとに、班ごとに話し合う。【Ⅰ】 ・調べ方について話し合い、分担をする。【Ⅰ】 ・調べたことを話し合い、わからなかったことを明確にする。【Ⅱ】 ・見学をしてわからなかったことを解決する。【Ⅱ】 ・班ごとの意見を交換し合い、ニュースの作り方をまとめる。【Ⅲ】 ・班ごとに話し合いながら計画をたてる。【Ⅰ】 ・班ごとに話し合い、協力し合いながらニュースを作る。【Ⅱ】 ・作品を見合い、お互いの考えを聞いたり比べたりする。【Ⅲ】 ・NHK の方の意見を聞き、放送に携わっている人たちの工夫や努力に気付く考えを深める。【Ⅲ】
まとめる	<ul style="list-style-type: none"> ・ニュースを見合い、活動を振り返る。(12) 	<ul style="list-style-type: none"> ○完成したニュースを見合い、良くできた点や苦労したことなどを話し合う。 <ul style="list-style-type: none"> ・決められた時間で必要なことを伝えるのは大変だ。 ・専門家がそれぞれの力を出し合っているんだ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ワークシート 	<ul style="list-style-type: none"> ・ニュース作りを通して、番組を作る人々の工夫や努力に対して、自分の考えをもつ。【思】 	<ul style="list-style-type: none"> ・全体で作品を見合い工夫や苦労などを話し合う。

V 児童の変容

S 児の変容の様子	交流・学習活動	O 児の変容の様子
本物のニュースはどうやって作られているのだろう。		
<p>(予想) ・(仕事の名前を列記)</p> <p>(考察) テレビ番組への出演経験もあり、番組制作の様子はほかの児童より知っている。その時の様子をもとに、多くの名前をあげた。</p>	<p>ニュースが放送されるまでの仕事を予想する。</p> <p>— 交流 I — 個々の予想をもとに、班ごとに話し合う。</p> <p>— 交流 I — 調べ方について話し合い、分担をする。</p>	<p>(予想) ・ビデオカメラを使う。</p> <p>(考察) 事前の調査では「ニュースはほとんど見てない」と答えた。ニュース制作についても興味がなく、今まで意識することがないようで、うまく予想が立てられなかった。しかし、[交流 I]を通してS児などの意見により、学習に対する手がかりを得て、意欲的に学習に参加するようになった。</p>
<p>(発言・予想) ・いろいろな人がいたり、一人一人大切ということが分かった。 ・やはりアナウンサーは大変だと分かった。 ・まとめのポスターに感想を入れるとよかった。</p> <p>(考察) [交流 I]ではグループの中心になって調べた。調べる内容をあらかじめ分担し、書かれたものをポスター形式にまとめた。O児に対しては、調べること、書き方などを詳しく教えていた。</p>	<p>— 交流 II — 調べたことを話し合い分らなかったことを明確にする。</p> <p>— 交流 II — 見学をして、わからなかったことを明確にする。</p> <p>— 交流 III — 班ごとに意見を交換し合い、ニュースの作り方をまとめる。</p>	<p>(発言・予想) ・いろいろ聞く。 ・記者が現場に行って、どんな機械でどんなニュースを伝えるか。</p> <p>(考察) 資料の内容がニュース作りだけではないため、どの部分を見ればよいのか分からなかった。しかし、[交流 II]により、S児に教えてもらい、内容をまとめられた。また、記者がいることや中継にはいくつかの方法があることを知った。自分も記者をやってみたいと思った。</p>
調べたことをもとにして、「T小1分間ニュース」を作ろう。		
<p>(役割) ディレクター兼カメラマン</p> <p>(発言・感想) アナウンサーのT君と記者のO君がよかった。</p>	<p>— 交流 I — 班ごとに話し合いながら、計画をたてる。</p> <p>— 交流 II — 班ごとに話し合い、協力し合いながらニュースを作る。</p>	<p>(役割) 記者(中継アナウンサー)</p> <p>(発言・感想) 今日はすぐにできる状態だったから楽しかった。</p>
<p>(発言・感想) ・どの作品も楽しかったです。 ・NHKのMさんの話はとても分かりやすくテレビのことを言ってくれてよかった。 ・週に1度テレビ発表というのを作り班ごとに続けてみたいです。</p> <p>(考察) S児は、自分たちの作品に不満点があり、発表の直前まで「編集し直したい」と言っていた。[交流 III]により他のグループの作品を見たり、NHKのMさんのお話を聞いたりして、新たな課題を考えさらに意欲が高まった。</p>	<p>— 交流 III — 作品を見合い、お互いの考えを聞いたり、比べたりする。</p> <p>— 交流 III — NHKの方の意見を聞き、放送に携わっている人たちの工夫や努力に気付き、考えを深める。</p>	<p>(発言・感想) ・みんなの(作品)はカメラがぐらぐらしていた。 ・自分も、カメラを向いて話した方が良かったと思った。</p> <p>(考察) 制作中は原稿を読むことが精一杯であった。[交流 III]により、ほかのグループの作品を見たり、友達に指摘されることで、足りなかった自分の工夫について、気付くことができた。また、意欲も向上した。</p>

VI 研究の成果と今後の課題

1 研究の成果

- 追究の前の交流により、児童は、その学習に見通しをもつことができた。
- 調べ方について交流することにより、児童は多様な調べ方を身に付け、活用できるようになった。
- 追究の途中での交流により、意欲を持続させながら追究することができた。また、問題からはなれてしまった児童の軌道修正もできた。
- 追究した後の交流により、様々な事実を共有し合い、自らの考えを広げることができた。
- 専門家との交流により、児童は自分たちでは追究できなかったことに気付き、考えを深めることができた。
- 調べる過程での自己評価カードの活用は、児童一人一人の気付きや疑問を、交流の場に生かすことができた。

2 今後の課題

- 調べる過程で、いつ、どのような交流を設定するか、さらに吟味を重ねる。
- 教材に合う交流の内容（人との対話、ものとの出会い）を検討していく必要がある。

研究主題 ————— 〈第6学年分科会〉

社会的事象に主体的にかかわることができる教材の工夫

～「人」に目を向けて～

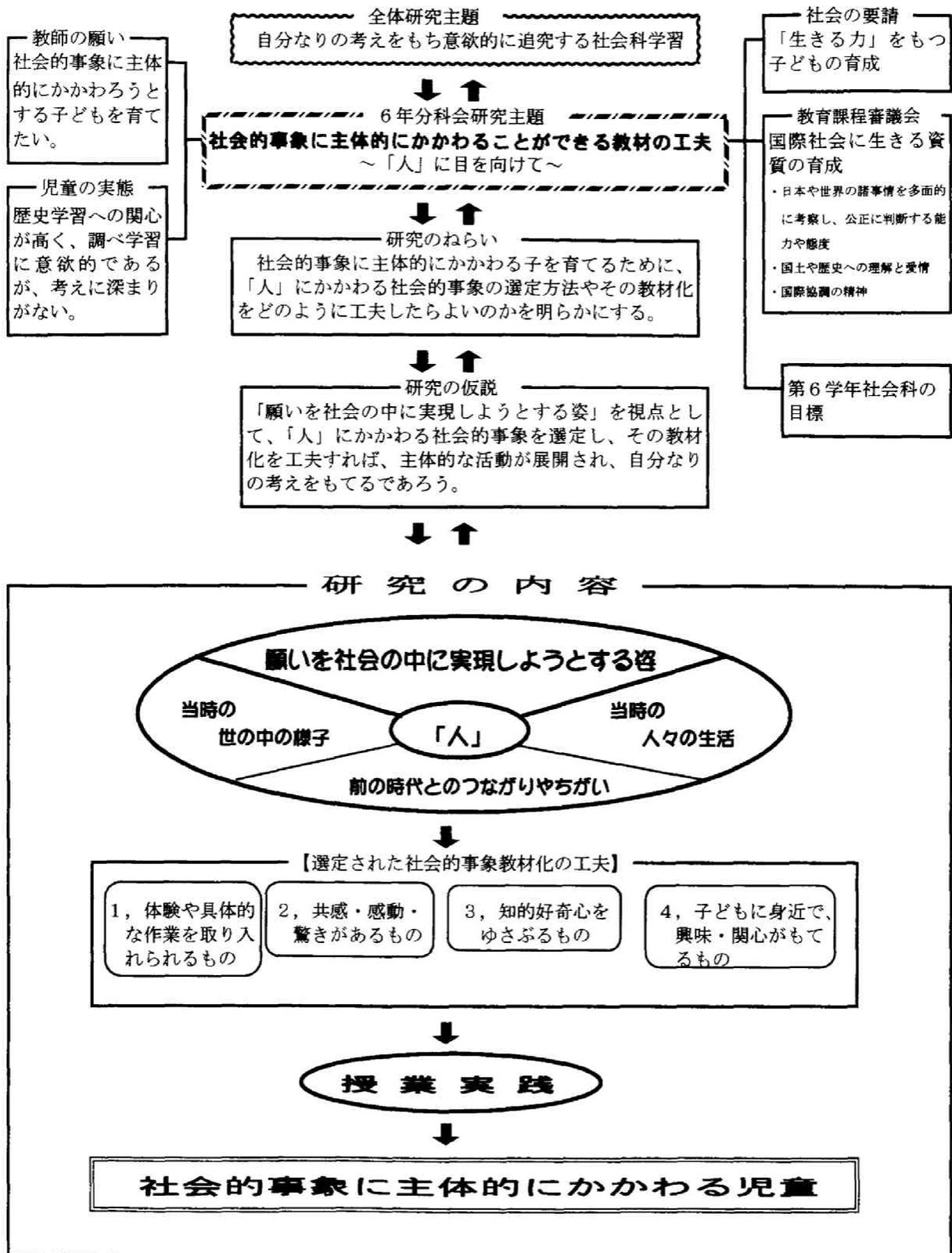
I 研究主題設定の理由

社会的事象を認識する力は、自分なりの考えをもつための大切な要素である。しかし、6年生の歴史単元の内容は多岐にわたり、情報量も多い。6年生の発達段階では、歴史を情意的な側面からとらえようとする傾向がみられる。そのため、知識を網羅的に扱う指導が先行すると、歴史嫌いになる傾向に陥りやすい。そこで、確かな事実を認識し、人物に共感できるようにすることが重要であると考えた。

そこで、人物にかかわる社会的事象を選定し教材化するうえで、「願いを社会の中に実現しようとする姿」が表れているものを取り上げることが必要ではないかと考えた。これにより、児童が思考の過程で社会的事象を相互に結びつけ、主体的に社会的事象にかかわっていきける社会科学学習が可能になるものにとらえた。

さらに、「歴史上の人物」の願いや思いが表れた社会的事象を教材化するための工夫の視点から、授業作りをすることにより、自分なりの考えをもち意欲的な社会科学学習が実現できることを期待し、上記研究主題を設定した。

II 研究の構想図



Ⅲ 研究の内容

1 「人」にかかわる社会的事象選定の視点

歴史单元では……

- ① 願いを社会の中に実現しようとする姿が見える。
- ② 当時の世の中の様子分かる。
- ③ 当時の人々の生活分かる。
- ④ 前の時代とのつながりやちがいが分かる。

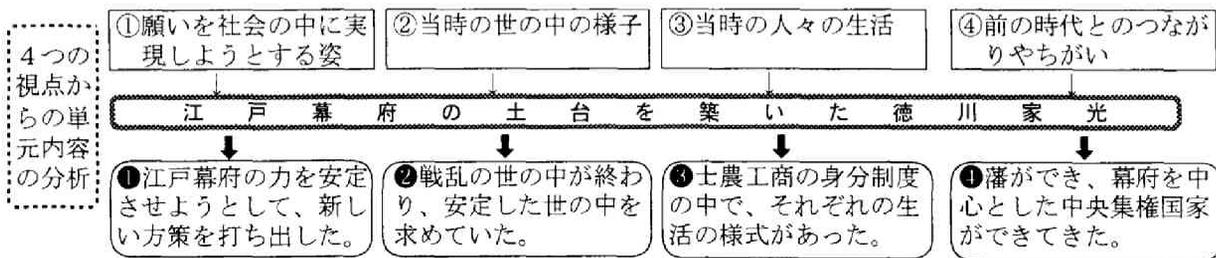
【教材分析1】

上記の4点の中から、特に①の視点から、「人」に対する教材分析を行い、单元名（中心内容）を決定する。



【教材分析2】

4つの視点から单元内容の分析を行い、单元でとらえさせたい社会的事象の視点を明確にする。



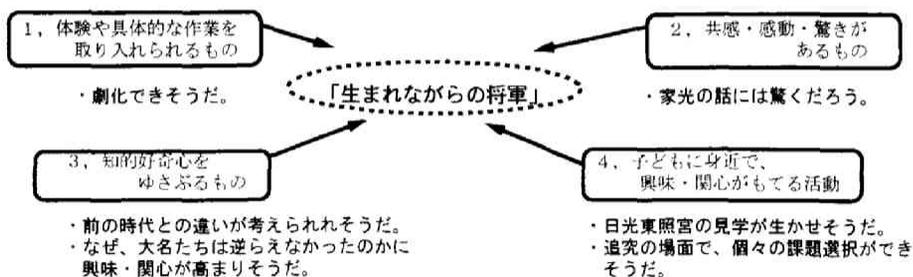
【教材分析3】 「人」にかかわる社会的事象を4つの視点から分析する。

徳川 家光		①江戸幕府の力を～	②戦乱の世の中が～	③士農工商の身分～	④藩ができ～
社会的 事象	参勤交代	○	○	○	○
	生まれながら將軍	○			○
	武家諸法度	○	○	○	○
	島原の乱	○			○
	踏み絵	○		○	
	出島	○			
	鎖国令	○	○	○	○
	士農工商	○	○	○	○
	慶安の御触書	○	○	○	○

2 社会的事象教材化の工夫

児童が実際に社会的事象にかかわるのは、学習活動である。以下のような視点から学習活動を工夫し授業実践を進めることにより、研究主題に迫ってみた。

【「江戸幕府の土台を築いた徳川家光」における社会的事象教材化の例】



IV 実践事例 「江戸幕府の土台を築いた徳川家光」

1 小単元のねらい 徳川家光は、幕府の基盤を固めるために様々な統制を行い、江戸幕府を中心とする武士の世の中を確立していったことを理解する。

2 指導計画と授業の実際 (★教師の働きかけ)

時	ねらい	主な学習活動と内容	資料	I 児 (歴史に興味があり、意欲的に調べ学習に取り組む)	Y 児 (自分の考えに慎重で発言することも控えめである)
1	○家光の大名に対する言葉から家光が将軍の権威を高めようとした思いや願いを劇化してつかむ	<ul style="list-style-type: none"> ・「生まれながらの将軍」の場面を劇化する。 ・大名に自分がなったとしたら、どんなことを思ったか発表する。 ・家光のその時の気持ちを予想し発表する。 ・自分が感じた家光の人物像をワークシートに記入し、発表する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・家光の肖像画 ・日光東照宮の写真 ・「生まれながらの将軍」の場面の想像図 ・家光の衣装 	<p>大名の気持ち</p> <ul style="list-style-type: none"> ・なんと生意気なことをいうのだ。 ・家来にしてしまうと、自分に自信がある人なんだな。 <p>家光の気持ち</p> <ul style="list-style-type: none"> ・みなは祖父と父の仲間だ。しかし私はそうだからといって安心してはいけない。みんなに家来になるかならないか心を決めてもらおう。 <p>家光の願い</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分の位の高さを知らせたい。 <p>★家光の言葉から、家光のどんな願いを予想できますか。</p>	<p>大名の気持ち</p> <ul style="list-style-type: none"> ・昔は、家康や秀忠と同じように戦ってきたのに、なぜ、家光が私たちの将軍なんだろう。 <p>家光の気持ち</p> <ul style="list-style-type: none"> ・私はこの中で一番偉い。だから、何を言ってもいいだろう。 <p>家光の願い</p> <ul style="list-style-type: none"> ・いろんな言葉を言って、みんなに納得してもらおうとしたこと。 <p>★劇での様子を思い出し、自分の感想を書いてごらん。</p>
					
2	○家光は政権を固めるために他にどんなことをしたのかを調べ、学習問題を作り学習計画をたてる。	<ul style="list-style-type: none"> ・幕府が開かれてからの百年間の絵年表を見て、政権を固めるために行われたことを予想する。 ・学習計画を作り、学習計画をたてる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・絵年表 	<p>【クラスの学習問題】</p> <p>家光が江戸幕府の土台を築くために行ったことはなんだろう</p> <p>【I 児の学習問題】</p> <p>参勤交代</p> <p>【Y 児の学習問題】</p> <p>キリスト教と鎖国</p> <p>★絵年表の中から、家光の「願いを社会の中に実現しようとする姿」を感じとれるような興味のあるものをえらんでごらん。</p> <p>★図書館から、資料を集めるのもいいね。</p>	

3 考察

家光の「生まれながらの将軍」の話は、子どもたちに家光がおかれている立場を、具体的にそしてより印象深くつかませるのに効果的であった。第1時のI児の「家光の願い」には、「自分の位の高さを大名に知らせなければならなかった」という家光の立場が、劇化によって予想されている。家光の姿を、導入部において劇化により感じ取ったことは、いつも何を焦点にして調べていくのかを、はっきりとさせることになり、児童の追究もより意欲的なものになっていった。また、まとめの段階では、自分の調べたものと比較・検討しながら、友達の発表を聞くようになり、さらに事象と事象とを関連付けて考えることができた。

「家康への手紙」に表れたI児のまとめでは、自分は家光として祖父の業績を継承し、なおかつ自分なりの政策を立案し、江戸幕府の土台を築いていったという家光の意志を読み取ることができた。そこには、家光の将軍としての権力者の姿だけでなく、家光をより身近な存在としてとらえた子どもの意識を感じ取ることができる。

また、Y児においては、第1時の「家光の願い」の予想では、「みんなに納得してもらおうとした」という本人のやさしい性格を感じさせる感想を書いていたが、まとめの「家康への手紙」の中では、「幕府の財政が苦しくなり、つらい状況ではありますが、この世を平和にしていくことを目標にしています」という家光としての力強い決意に変容している。歴史的な事象を学んでいく過程で、家光の願いにいつも焦点を合わせていったことにより、家光の願いの強さを学んでいくことができたのではないかと思われる。

V 研究の成果と今後の課題

1 研究の成果

学習内容の精選

関連付けた思考が
自分なりの考えへ

課題の明確化が、
意欲的な追究へ

- ・「願いを社会の中に実現しようとする姿」を視点とし、「人」にかかわる社会的な事象を選定した単元を構成していくことにより、学習内容を精選することができた。また、事象と事象を関連付けた思考もできるようになり、歴史やこれからの自分の生き方について、自分なりの考えをもつことができた。
- ・共感や驚きのある教材提示や活動を取り入れていくことにより、一人一人の課題が明確になり、意欲的な追究活動ができた。

2 今後の課題

「選定の視点」か
らの分析と検証

活動場面の設定と
深い教材分析

- ・今回の実践では、「選定の視点」を挙げるまでに時間を要し、一部の単元でしか実践できなかった。したがって、すべての単元を「選定の視点」から分析し、検証を重ねる必要がある。
- ・児童の興味・関心を高め、意欲的な追究ができるように、多様な調べ活動や体験的な活動の場を設けると同時に、指導者自身の深い教材分析が大切である。

研究の成果と課題

〈研究の成果〉

- 地域にある素材を見つめ直すことにより、児童により身近なものを教材化することができた。その結果、児童は教材を身近に感じとり、学んだことを生活に生かし、自らかかわろうとする姿もみられた。また、学びの姿を分析することにより、教材との出会いや教材への働きかけ、教材を通した生活の見つめ直しという児童と教材とのかかわり方を明らかにすることができた。(身近な素材の教材化)
- 地域をみる視点を明確にすることによって、地域の見方・考え方を深めるための教材の工夫を考えることができた。また、学習の過程で地域の見方・考え方の深まりを見取るのに有効であった。(地域をみる視点の明確化と教材の工夫)
- 「なぜという問いがもてる教材」は、課題意識をもち、単元を通して意欲的に追究し、地域の社会的事象の意味を考えるのに有効であった。また、「いろいろな見方ができる教材」は、地域の社会的事象を様々な立場から考えるのに有効であった。さらに、児童が調べたことを教材として比較できるように工夫すると、地域の見方・考え方が一層深まった。
(多面的な見方ができる教材の工夫)
- 調べる段階でどのようなことでもつまずいてしまうかを自己評価カードで見取り、それに応じて児童同士・教師・協力者・資料などとの交流をもたせた。このことによって、児童はその学習に対して見通しをもてるようになり、意欲を持続させながら追究していくことができた。また、調べたことを児童同士で交流し合うことによって、児童は様々な事実を共有し合い考えを広げることができた。(相互評価の場の工夫)
- 「願いを社会の中に実現しようとする姿」を視点とし、「人」にかかわる社会的事象を選定した単元を構成していくことにより、学習内容を精選することができた。また、事象と事象とを関連付けた思考もできるようになり、歴史やこれからの生き方について自分なりの考えをもつことができた。(教材選定の視点の明確化による学習内容の精選)
- 共感や驚きのある教材提示や活動の取り入れにより、一人一人の課題が明確になり、意欲的な追究活動ができた。(共感や驚きのある教材化の工夫)

〈今後の課題〉

- ・ 単元のねらいに到達するためのより細かい地域素材の分析、教材化が必要である。また、より具体的に「教材化の視点」を明らかにすることも今後の課題である。
- ・ 教材の工夫として「なぜという問いがもてる教材」・「いろいろな見方ができる教材」の2点の他にどのような工夫が有効か、さらに研究を深めたい。また、児童が自分の考えをもつためにどのように見たり、考えたりするかを「事実としてみる・関連のあるものとしてみる・意味のあるものとしてみる」の3つとしたが、実践を通して検討を加えていきたい。
- ・ 事実追究型の学習問題について調べた後の交流学习をさらに工夫し、論理的追究型の学習問題に児童が自ら気付くような工夫もしていきたい。
- ・ 「願いを社会の中に実現しようとする姿」を視点とし、「人」にかかわる社会的事象を選定した単元の実践を、歴史学習(第6学年)の全ての単元について、積み重ねていく必要がある。